



園だより

.....18. 5月号

うちの子ってどんな子？

春の幼稚園は泣き声がいっぱい・・・というのがお決まりです。ところが今年のあいりんは、泣く子はいたのですが、どうやら一通りの山は越えた模様で、私たちはちょっと拍子抜けです。「出かける前にもものすごく泣いたんですけど、幼稚園お休みしてもいいよって言ったら、行くなって言ってピタっと泣き止んで、それからもうすっきりしたみたいで。」とか、「今日はもう、途中で帰っていいってバイバイされちゃいました。」など、早めの親離れに驚くばかりです。でも、そのどの子からも、心に大きな決心をしていることが伝わってきます。本当はまだお家の人と一緒にいたいけど、幼稚園という所ではそうもいかないらしいとわかって、自ら繋いでいた手を離し未知の世界へ踏み出して、新しい関係性の中に自分を繋いでいこうとする決心です。まだ“小さな人たち”と大人は思っていますが、なかなかどうして、凄いことをやっている真最中なのです。幼稚園はその決心に応えなければなりません。ですから、楽しい毎日を積み重ねていきたいと思います。そしてご家庭の皆様にも、この決心を支えていただきたいと思います。「ようちえん、たのしい！」という言葉は嘘ではありませんが、子どもたちは少し背伸びをして頑張っています。ですから、お家に帰れば等身大の自分に戻ります。頑張らない自分に戻って、安心できる大好きな人と繋がってエネルギーを補給します。でも繋がり方は様々です。素直にまっすぐ繋がる人、ひねくれて繋がる人、繋がりたいのにやせ我慢する人などなど。あなたのお子さんはどんなお子さんですか？タイプを見極めて対応してください。厄介と思わずに、お願いします。そして大人が不安にならずに、安心していってらっしゃい、と幼稚園へ送り出していただきたいと思います。

さて、私は先月の園だよりで＜愛隣幼稚園 保育目標＞を皆さんと共有させていただきました。折角なので今年の前半は、保育目標に掲げられた子ども像について考えていきたいと思います。

最初は**げんきで生き生きあそぶ子**です。

この言葉から私たちはどんな子どもの様子を思い浮かべるでしょうか。澆刺として休まずに登園する、快活に過ごす、いつも気持ちの良いにこに笑顔、積極的に人やものに関わる、動き回る走り回る、賑やかな声、溢れるエネルギーなどでしょうか。そう、この言葉から私たちがイメージする子どもたちの姿は、明るくポジティブな子どもたちの姿です。もちろん、この目標には子どもたちはそうであってほしいという願いが込められています。しかし、げんきで生き生きあそぶ子どもの姿は、そんな画一的なものでしょうか。先生たちでこの目標について話をするようになった冒頭に、ある先生が言いました。「これって、＜げんきで＞ってじゃないんじゃないかなと思うんですけど。なんだか＜げんきで＞って言われると、どの子もいつも同じように、にこにこして何にでも積極的でないと＜げんきで＞にならないような感じがして、それってどうなのでしょう？」という意見でした。なあるほど！と思いました。＜げんきで生き生きあそんでいる＞一人ひとりの子どもの姿は、私たちがイメージするような画一的な姿ではない、ということはこの先生は言いたかったのです。その通りです。A君が＜げんき＞な姿とBちゃんが＜げんき＞な姿は同じではありません。＜生き生きあそぶ＞姿だって同じではないのです。溢れんばかりのエネルギーを放出して、弾ける笑顔で汗だくになってあそぶ＜げんき＞なA君、一方でBちゃんは物静かにゆっくりとマイペースです。じっくり考えてから動き始めます。表情はあまり豊かではありませんが穏やかな表情の中に満足感は見取れる＜げんき＞なKちゃん。＜げんきで生き生きあそぶ＞姿は一つではないのです。さて、親として、先生として私たちは子どもたちひとり一人が＜げんきで生き生きあそぶ＞姿をどのように見取っているのでしょうか？私の子はどんな子なのでしょう？もしかすると、知っているようで知らないのかもしれない。「どうしてうちの子は、A君みたい元気に活発に遊べないのかしら。」Bちゃんの親だったらそんな風に思うかもしれません。でも、BちゃんはA君ではないし、Bちゃんらしさは違うのです。大人はまずそのことを知ってほしいと思います。うちの子が＜げんきで生き生きあそぶ＞姿は“これ！”と知って、その姿を支える大人たちでありたいと思います。うちの子ってどんな子？